

和歌山県花き振興計画（案） 概要

目標：収益性の高い魅力ある花き産地の形成

根拠法：花きの振興に関する法律（第4条）

計画期間：2026～2030年度

1 本県花き生産の現状

栽培面積：684ha(2023年)：2018年から51ha(7%)減
産出額：74億円(2023年)：2018年から3億円(4%)増
担い手：1,039経営体(2020年)：2015年から333経営体(25%)減
施設：簡易なパイプハウスが栽培施設の約5割を占める

3 栽培面積・産出額の目標

	2023（現状）		2030（目標）			
	栽培面積 産出額	684ha 74億円	635ha 76億円	635ha 76億円	平均経営面積 (a/経営体)	
	栽培面積 (ha)		産出額 (億円)		平均経営面積 (a/経営体)	
	2023年	2030年	2023年	2030年	2020年	2030年
花き全体	684	635	74	76	47.5	46.7
スターチス	71	71	24	25	38.7	43.0
宿根かすみそう	21	20	7	7	15.2	19.9
きく	37	27	4	3	18.8	21.8
ガーベラ	5	5	3	3	46.2	34.6

2 花きの振興に向けた取組方針

1) 気候変動への対応

- ・対策技術の開発及び優良品種の育成
- ・高温対策資材、機器の導入
- ・耐風性、耐暑性ハウスの導入

2) 収益性の向上

- ①生産性の向上
 - ・スマート農業技術等の導入による高品質、多収化、省力化
- ②施設園芸の省エネ化
 - ・省エネ技術、設備の導入
- ③流通対策、消費拡大
 - ・新たな購買層の確保と消費PR
 - ・日持ち性が良くかつ効率的な流通
 - ・花育活動の推進

3) 担い手の育成・確保

- ①大規模経営体の育成
 - ・地域計画に基づいた農地の集約化
 - ・栽培管理の自動化による省力化
 - ・農繁期における労働力確保
- ②新規就農者の育成、確保
 - ・農林大学校等による就農支援
 - ・施設整備への支援

 1経営体あたりの
経営面積の拡大

4 品目別振興方針

1) スターチス

- ・耐風性ハウスの整備
- ・遮熱資材など高温対策の推進
- ・換気やかん水の自動化による省力化と生産性向上

2) 宿根かすみそう

- ・耐風性ハウスの整備
- ・遮熱資材など高温対策の推進
- ・変温管理等による省エネ化の推進

3) スプレイぎく

- ・県オリジナル品種「紀州サマーリンド」の栽培技術確立と普及
- ・自動カーテン装置や変温管理等省エネ化の推進

4) ガーベラ

- ・夏季の高温対策として、細霧冷房や自動カーテン装置等の導入
- ・省エネルギー生産のための自動カーテン等の設備の導入

共通 スマート農業技術の導入による省力化と生産性向上